**「アフリカの奇跡」を考える〜フォトランゲージを通して〜**

久光はな　福山愛菜　舘内香純（仙台城南高等学校　特進科１年）

**Ⅰ．はじめに**

　20年前のジェノサイドから見事に復興を遂げた「アフリカの奇跡」をこの目で確かめたいという強い思いから、2014年に担任の伊藤恵先生がJICA教師海外研修に参加し、団長としてルワンダ共和国に派遣されました。滞在中、訪問・見学した日本大使館や教育省、現地の学校やメモリアル、日本人が青年海外協力隊として活躍している国際教育の現場の様子を、授業を通してダイレクトに私たちに伝えてくれました。また、現地で撮影した写真や動画は、「生きた教材」として私たちによりリアリティーを持たせてくれたため、まるで自分たちが現地に行ったかのように知ることが出来ました。

　その後、「アフリカの奇跡」に興味を持った私たちは、各自図書館でルワンダについて調べるうちに、ジェノサイドに至る歴史的経緯やその後の復興状況について理解することができました。その中で、特に「女性のパワー」が今のルワンダを支えていることが分かりました。

**Ⅱ．発表内容**

　「アフリカの奇跡」と言われるほどの復興を可能にした国民の「心の変化」について、実際に現地で撮影された「写真」から読み解きました。私たちは、「国民の心を大きく変えるためには、国のリーダーの影響力が不可欠だった」と思い、自分が大統領になったつもりで政策等を考えることで、自分たちなりに問題解決への糸口を見出しました。

具体的には、クラスに取ったアンケートを集約し、それをもとにダイヤモンドランキングカードを作成することで、「問題解決のためにできること」を主体的に考えることができ、それらを共有することができました。

また、この活動を多くの人に知ってもらうために、本校の「プレスクール」において、中学生を対象にワークショップのファシリテーターをしました。中学生でも分かるように、ジェノサイドの歴史を紙芝居にして説明したり、先生が撮影した数万枚の写真の中から自分たちでピックアップし、「フォトランゲージ」という手法を使って、その背景にある事象を理解し、よりルワンダについて考えを深めていくことを目的に説明しました。

今回は、その時の内容をまとめるとともに、実際に再現してみたいと思います。

**Ⅲ．まとめ**

本研究は、ジェノサイドだけに焦点を当てて言及するのではなく、ルワンダの人々がこの出来事とどう向き合いどのように前を向いていったのかについて深く意識しました。また、この研究の成果を別な方法で形にしたいと考え、文化祭（城南フェスティバル）で「ルワンダカフェ」を企画し、ワークショップとフェアトレードのルワンダコーヒーを販売しました。売上金は、NPO法人「ルワンダの教育を考える」を通して、ルワンダにある「ウムチョ・ムィーザ学園」の給食プログラムの寄付金として贈呈しました。